

「里山の維持再生ゾーン」の実現に向けて

～市民協働による持続可能なまちづくりのモデルケースとして～

5月から「さとやま (satoyama) 通信」をはじめました。

里山には、日々の生活のやすらぎの空間や、生きもの観察や野外活動など、さまざまな楽しみ方があります。そのような里山が市内にもあることをご存じでしたか。

今回は、学研木津北地区「里山の維持再生ゾーン」の中で生息する貴重な生きものを紹介します。

みなさん これは何でしょう？



カスミザンショウウオ

全長はオスで87～105mm、メスで91～101mm程度。
平地から標高約200m以下の低い山地の林床や草地に生息します。ふだんは浅い土壌中や落葉・倒木・石などの下に潜っており、節足・環形・軟体動物などを捕食します。

(参考 レッドデータブック)

京都府：絶滅寸前種

環境省：絶滅のおそれのある地域個体群



ニホンアカガエル

全長はオスで45mm、メスで60mm程度。背面は橙色。
平地から丘陵地に生息し、2～4月に水田や湿地で繁殖します。こぶし大の卵塊を産みます。

(参考 レッドデータブック)

京都府：要注目種

※「レッドデータブック」とは

すでに絶滅したり、近いうちに絶滅しそうな生きものの種類やその原因などをとりまとめた本です。世界ではじめてつくられたときに、もっとも絶滅の危険がある生きものの説明が赤色の用紙に印刷されていたことから、レッド(赤い)データ(資料)ブック(本)とよばれるようになりました。

なお、京都府レッドデータブックでは、絶滅が心配される生きものだけでなく、生きものの生活の場である地形や地質、生態系も対象にしています。

京都府レッドデータブックホームページ

URL <http://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/index.html>

このゾーンでは、これらの生きものが繁殖に必要な水環境や生息場所となる周辺の陸環境(森林)を、一括して保全していく必要があります。

生きものが生息していることは、その里山の状況を知るうえで大切なことです。生きものは、今ある環境の中で生息できています。

これからもみんなで、里山の維持に努めながら大切に見守っていきましょう。

生きものを絶滅させないために、みんなにできること。

- その1 身近な自然に関心を持って、自然の中でそっと生きものを観察しよう。
- その2 絶滅のおそれのある生きものをつかまえたり、飼ったりしないようにしましょう。
- その3 ペットや外来種を自然のなかに放さないようにしましょう。
- その4 森や川などに出かけたときは、ゴミはすべて持ち帰ろう。
- その5 野生の生きものにエサを与えたり、さわったりしないようにしましょう。

